



わが家のアイドル

白浜にお住まいの
長谷川 喜男さん・明美さんの

長女 **華乃** ちゃん(7歳3か月)
長男 **虎輝** くん(3歳11か月)

イチゴが大好きな姉弟です。お姉ちゃんは1輪車、弟は緊急車両にハマってます。みんなよろしくね!

みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。



下田市はあいさつ運動実践中 『おはよう』の声 こだます



市史編纂新資料紹介

旧本郷村 古文書

下田市が昨年購入した古文書の一部を紹介します。

○天保十年(一八三九)「お尋二付奉書上候男女年輪 本郷村」本郷村の八十歳以上の男女を書上げた史料。

それによると、男二人、女七人の計九人を書上げている。最高齢は「きく」の八十七歳、他は八十から八十二歳である。当時の本郷村人口は、五百七十人位であるから、江戸時代の平均寿命は、意外と高かったのかもしれない。

○元治二年(一八六五)「太炮献金小前書上帳 本郷村」

幕末、葦山代官江川氏は動員力を失った幕軍や藩兵を補うため農兵組織を建議し、認められるや配下の村々に献金を募集した。幕府からの支援が期待できなかったからである。同種の文書は、ほかでも見られるが、本郷村では十五両が二名の百姓によって出されている。集められた金額は併せて一万両を超え、これを

江戸馬喰町貸付金として運用し、その利子をもって農兵の運営に充てた。

下田での農兵は、下田及び近在から集められた農工商三十五、六人によって組織され、八幡神社や宝福寺にて訓練した。後に武ヶ浜に練兵場を設けて二年間砲術・鎗術などの訓練をしたが、結局実践には至らなかった。

○明治四年「年恐以書付奉願上候」と題する四点綴の文書 村人にとって年貢は最も大事な出来事であったことは言うまでもなく、明治初期の地租改正まで納入が強制された。

明治四年五月付で柿崎・落合・中の三か村から年貢についての嘆願書が出された。昨年の年貢の納入に関して、この地区では田地に関しては金と米が半分ずつで、畑地ではすべて金で納めるよう命じられていたようである。

ところが、柿崎村では、米があまり穫れないうえに米質も良くない土地柄であるので、田畑ともに金納にしてほしい。落合村の田地は七分米納(七割を米で支払う)という願い、中村は田方すべて米にて納めたいとの嘆願である。年貢を

米で支払うか、金(銭)で納めるかは村にとっては重要な問題であったことがわかる。米がそれほど穫れない柿崎村、田地が多い中村、その中間の落合村と各村の状況に応じた納入方法を稲生沢組の代表本郷村仲右衛門を通じて葦山県に嘆願しているのである。同じ年貢といっても実際に支払った方法は各村で最適最良の方法で納入しようとしたのである。

■市史編纂展示会を開催
今回ご紹介した古文書を含め編纂事業で蒐集された貴重な絵図等を展示します。

日時 3月20日〜26日
10時〜15時

場所 ベイ・ステージ4階



旧本郷村古文書

問合せ先 生涯学習課

☎ 5055



「広報」または再生紙を使用しています

伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>



いいずらいず

伊豆縦貫道早期完成